

女性差別の一掃は賃労働廃絶への第一歩

働く女性の差別一掃のために闘います

労働の解放
をめざす
労働者党
ホームページ
wp11-j.org
エルエル

母の背中

父親は薄給の上失業期間も長く、母親が一年中内職で家計を補っていました。しかし、朝から夜まで働いてもまったく割に合わないのに見切りをつけて、保険の外交員として働くようになりました。

労働組合にも加入し、組合活動で夕方から出かけたり、鉢巻を締めてメーデーにも参加していました。この頃には、父親の機嫌を常に気にしていた母親が堂々としているように映りました。

それは私自身が、女性が男性に依存するのではなく、経済的に自立をしないとダメだと考えるきっかけになりました。

労働者としての経験

私は高校を卒業後、民間会社の事務や郵便局の窓口業務、鋳物工場の現場など多くの仕事を経験してきました。民間会社の事務職では、女性とは簡単な事務や電話の応対、お茶くみがほとんどでした。

当時、女性は結婚すれば退職することが一般的でしたから、妊娠・出産後も同じ職場で働くなどは皆無でした。男性優位の職場や知人の家庭を見るにつけ、女性は結婚するまでは自由でも結婚すると自分自身を失ってしまうと思いました。

その後「生産的労働」に就きたいと、鋳物工場の現場で男性と一緒に働きました。しか

し、体力的に劣るからと女性

は補助的な仕事を中心でした。この時、少しの配慮さえあれば女性でも可能なことは多くあるのに、最初から男性と同じ仕事はできないと決め付けられていることが不満でした。

企業は妊娠・出産を口実に女性を差別

女性労働者には職種や労働条件、賃金などで男性とは大きな差別があります。利潤が目的の今の資本主義社会では、女性は男性に比べて劣った労働力として見なされています。現在では、女性労働者の比率が専業主婦を上回り、定年まで働く女性も珍しくありません。

にもかかわらず、生涯に得

る賃金には大きな差があります。女性の賃金は男性の七三

%、生涯賃金は女性が男性より約四千五百万円以上少ないのです。労働時間はほとんど同じなのに、なぜこのような大きな差があるのか。女性労働者は大きな憤りを持っていると思います。

資本家は女性が男性より劣っていると見なしますが、しかし、そういった事実は何いどころか、男性より優れていることが多くあります。

そもそも男女の違いは女性に妊娠・出産があり、その期間は休職せざるを得ないということだけです。しかも、一生の労働時間からすればほんのわずかであり、女性は次世代を生むということを担って

いるのです。

資本家は女性だけにある機能や家事労働が女性の役割になっているのをいいことに女性差別に悪用しているのです。それが低賃金や不安定雇用のパートタイマーとして、多くの女性を非正規雇用の身分に置いているのです。

安倍政権の「女性活躍社会」はまやかし

このような実情に対して、安倍政権の唱える女性活躍社会は、専業主婦も女性労働者も活躍する社会だと言います。しかしまだ「家内奴隸制」の身分に安住する専業主婦が、社会的に活躍するとはどういうことでしょうか。

家事労働は個別家族を対象にしたものであり、社会的労働とはまったく別の事です。夫に養われる身分から脱して経済的自立を得てこそ社会的な活躍もあります。

女性解放は先ず男性に扶養

【表面より続く】

を美化し、擁護して世のブルジョアたちや男性諸君たちから喝采を浴びたのですが、上野の「あなたたちのがんばりを、恵まれないひとびとを助けるために使ってください」といった、貧しい人々とは、「性を売る」女性たちのことだったのでしょうか。余りにバカけています。

もちろん伊藤さんの女性労働者の生活改善と解放のために闘うといった立場は、資本による女性労働者への差別と搾取と闘い、一掃するという単純なものであって、フェミニズム女性らのものとは全く違います。それは労働者として生きてきた、伊藤さ

んの骨肉となった思想です。

伊藤さんのすごいところは、かつて兵庫県で立候補して敗れた国政選挙後、サークルに属しながら、資本論学習会を組織しつつ、マルクス主義一とりわけ資本論冒頭の商品論Ⅱ「労働価値説」——をしっかり、完ぺきといえるほどに理解したこと、この分野での彼女の知識とレベルは第一級であって、そこらのなまくら学者やインテリの水準をはるかに超えています。

かつて共産党の吉良佳子が13年参院選東京で当選した折り、「これからしっかり資本論を読みます」などと叫んでいました。が——彼女がその後、資本論を

るためには、育児や介護が一部の人の仕事として行われるのではなく、社会全体の仕事、全成員の活動として行われる必要があります。男性労働者が資本の軛から解放されるのも、女性の解放とともにあります。

(伊藤恵子)

どれだけ読み、どれだけ理解したか知りませんが——、中年から真剣に学び始めて資本論の核心を理解した伊藤さんの足元にも及ばないことだけは確かです、というのは、資本主義の「民主的改良」といった訳の分からないことしか言えない共産党員には、そもそも資本論を真剣に学ぶ動機がないからです。

労働者の皆さん、女性労働者の皆さん、皆さんの支持が伊藤さんに集中するなら伊藤さんは国会に進出して、労働者のために、とりわけ貧しい女性労働者のために確かに、粘り強く闘う信念の人です。

(林 紘義)